

Aさんより

本インターンでは先輩の研究補助を通して、大学の研究活動に直接触れる貴重な経験を得ることができました。2週間のうち、1週目は初めて取り組む機械学習について基礎的な知識を学び、環境構築を行いました。また、プログラミングのPythonを習得しました。2週目はアノテーション作業を行ったのち、実際に機械学習を実施し、複数のパラメータを調整してその有用性を検証しました。

これらの活動を通じて、研究を進める上での計画性や試行錯誤の大切さを実感するとともに、自身の技術力や知識の不足を痛感しました。また、留学生との交流を通じて英語でのコミュニケーションにも挑戦し、新たな学びと刺激を得ることができました。

今回の経験を通して得た知見を今後に活かし、専攻科でのさらなる成長と将来の進学に繋げていきたいと考えています。



Bさんより

今回のインターンシップでは、RO32を用いたCLIツール及びCLIライブラリの学習と、水中ロボットの運動制御に取り組みました。特にロボットの制御設定と運用を用い、運用前の点検や実験準備などを通じて、協力して取り組むことの重要性を実感しました。また、研究室の雰囲気など今後の進路選択を考えるうえで大変参考になりました。

Cさんより

LB 培地をはじめとした培地作製や無菌操作を研究室の方々に教えていただきながら、活動を行うことができた。特に、印象に残った実験は、遺伝子組み換え等で使用される大腸菌を寒天培地に植え付ける「植菌」操作である。高専の実験、研究でもおこなったことのない作業で、新たなスキルを習得できた。今回の就学体験を高専の研究活動に反映していく。

高専 インターンシップ 報告 2025年度

Dさんより

体験内容はUnityを用いたアプリ開発で、私はUnityは初めて触れる状態からのスタートでした。指導者の方から操作方法や開発手順を教えていただき、FPSゲームやARナビゲーションシステムの作成を通してUnityの基本的な使い方を学びました。今回のインターンを通して、未知の環境でのアプリ開発や英語でのコミュニケーションを体験でき、今後の活動に活かせる経験を得ることができました。

Eさんより

今回、免疫反応を利用し抗原の局在を可視化する実習において、高専の実験で取り扱わない装置や試薬、マウスの剥離舌上皮標本を用いた実習を行ったことで、より研究に対する興味が深まった。以前まで進学したいという意思はあったものの進学後のイメージがわからず、進路に不安を持っていたが、今回の実習でより進学への思いが強くなった。



Fさんより

インターンシップ期間中に主にバイオマイクロデバイスの製作、デバイスへの細胞培養、細胞層の電気抵抗測定の3種類の実習を行い、最後に実習のまとめと成果発表を行った。5日間を通して、慣れない環境ながらも、いつも学んでいる専門分野とは異なる分野に触れることができ、とても有意義な時間を過ごすことができた。また、進学したいという思いが強まった。



高専インターンシップ参加校
参加校：17校、参加者：62名

- ・有明工業高等専門学校
- ・宇部工業高等専門学校
- ・大分工業高等専門学校
- ・大島商船高等専門学校
- ・小山工業高等専門学校
- ・鹿児島工業高等専門学校
- ・木更津高等専門学校
- ・北九州工業高等専門学校
- ・熊本高等専門学校
- ・呉工業高等専門学校
- ・高知工業高等専門学校
- ・佐世保工業高等専門学校
- ・豊田工業高等専門学校
- ・新居浜工業高等専門学校
- ・舞鶴工業高等専門学校
- ・都城工業高等専門学校
- ・米子工業高等専門学校